

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、6月15-16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置き、注目されていた資産買入れの縮小に関しては、「議論を開始することを議論した」と表現するにとどめ、踏み込んだ発言は行われませんでした。

声明文では、足元の新型コロナウイルスの感染状況について、「ワクチン接種の進展によりウイルスの広がりを抑制している」とし、パンデミックに関する認識を前回声明から上方修正しました。また、インフレ率については前回の「長期的な目標から下回っている」から「長期的な目標から下回った」とし、足元のインフレ率の上昇を踏まえ、修正されました。

FOMC参加者の経済見通し(中央値ベース、図表1)が、3月会合以来、公表されました。足元の大型経済対策やワクチン接種の急速な進展を受け、GDP成長率見通しは、2021年度に上方修正される一方、2022年以降は殆ど変更されていません。また、インフレ率の上昇は一時的である見方を維持しています。

FF金利予測(ドットチャート、図表2)については、2023年の利上げを予想する参加者が18人中13人と、3月会合の7人から増加し、2023年末迄の中央値は0.625%となっています。

FOMC終了後の会見でパウエル議長は、「経済見通しは改善したものの、景気回復は道半ばであり、リスクは残っている」と述べています。また、ドットチャートでは2023年の利上げを示している一方で、確定的なことではなく経済環境次第で変更することを強調し、市場の早期テーパリング(量的金融緩和の段階的縮小)開始観測を牽制しました。

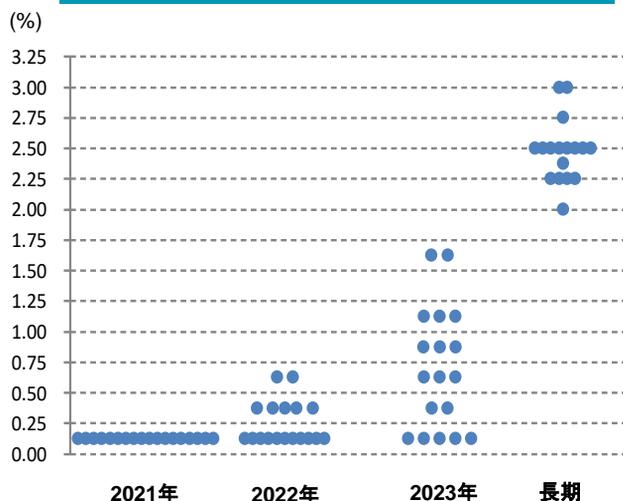
図表1 FOMC参加者の経済見通し
(中央値ベース)

	2021年	2022年	2023年	長期見通し
GDP成長率	7.0%	3.3%	2.4%	1.8%
(前回3月)	6.5%	3.3%	2.2%	1.8%
失業率	4.5%	3.8%	3.5%	4.0%
(前回3月)	4.5%	3.9%	3.5%	4.0%
PCEデフレーター	3.4%	2.1%	2.2%	2.0%
(前回3月)	2.4%	2.0%	2.1%	2.0%
コアPCEデフレーター	3.0%	2.1%	2.1%	-
(前回3月)	2.2%	2.0%	2.1%	-
FFレート	0.125%	0.125%	0.625%	2.5%
(前回3月)	0.125%	0.125%	0.125%	2.5%

*GDP成長率、PCEデフレーター、コアPCEデフレーターは各年10-12月期の対前年比、失業率は10-12月期の平均値、FFレートは各年末ベース

出所:FRB

図表2 FOMC参加者のFF金利予測
(ドットチャート)

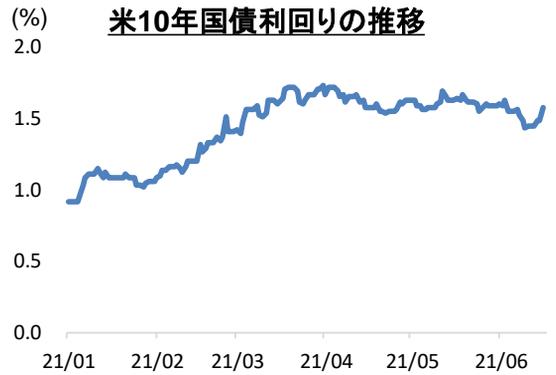


出所:FRBより弊社作成

市場の反応

米国株式市場では、ドットチャートで2023年の利上げを予想する参加者が想定以上に多かったことがサプライズとなり、NYダウは前日比265.66ドル安の34,033.67ドルで終わりました。

米国債券市場では、長期の緩和的な金融環境の維持という市場の認識がやや後退したことから、米10年国債利回りは前日比0.08%上昇の1.58%で終え、外国為替市場ではドル高が進行しました。



(期間) 2021/1/1～2021/6/16、(出所) Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回のFOMCでは、これまでのFOMCより金融引締め姿勢が一部見えたものの、パウエルFRB議長の金融緩和縮小に関する慎重姿勢を改めて確認する機会となりました。個人消費など良好な指標もありますが、雇用に関しては4月・5月と回復が続くものの、市場予想を下回っており、新型コロナウイルス感染拡大前と比較してまだに多くの雇用が失われています。また、直近のインフレ率の上昇は「一時的」との見方を維持しています。米国経済が、テーパリング議論の開始目安と考えられている「substantial further progress(顕著な一段の進展)」には該当しておらず、経済指標の良好な実績を確認してから行動に移すとしているためです。こうした方針から、FRBは本格的なテーパリングに関する議論の開始を見送ったと考えられます。

ただし、今回は本格的なテーパリングの議論開始が見送られたものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済支援策として給付されていた失業保険が一部の州では6月から休止すること、企業求人が過去最大水準に達していること、連休に入ればサービス業の業績回復が期待されること等から、今後は雇用情勢が急速に回復していくと予想しています。そうした好調な雇用統計等が確認されるにつれ、FRBも金融緩和縮小の議論開始に向け、動きやすい状況が整っていくものと見ています。

(ご参考) 今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
6月	17-18日: 日銀金融政策決定会合		
7月		27-28日: FOMC	22日: ECB理事会
8月		26-28日: ジャクソンホール会議	

出所: Bloomberg